

日本とちょっと違うよ - 通訳者よもやま話 - Vol.4 ポルトガル語担当 松下さん

日本とブラジルはお互いにほぼ地球の反対側に位置しています。それと同じように両国の特徴もかなり違うと思うことが度々あります。そのうちのいくつかを紹介します。

スーパーマーケットで探している物が見つからない時、すぐそばにいる人に「ケチャップはどこにある？」という感じで、すぐ話しかけられる気軽さがブラジル人にはあります。しかも最初の声掛け「すみません」に当たる言葉は普通使わないので、いきなり本題に入ります。日本ではこんな時、店員を探す人が多いのではないのでしょうか。

公立学校がどのような所か知りたいという好奇心から、知人のついでに1週間に一度、午前中の2、3時限に公立高校へ通ったことがあります。ブラジルの学校は午前と午後、夜間の二部または三部制となっていて1つの教室を複数のクラスが利用します。そのため教室には掲示物がほぼ無く、教科によっては教科書は授業中だけ配布という場合もありました。印象的だったのは、授業中は活発に意見の交換が行われていたことです。またある時、学期末試験後の最終登校日に、教室にあまり生徒がおらず、「試験の採点が終わって成績が決まったら来ないのよ。」との先生の答えにびっくりしました。

ブラジルには国民皆保険制度はないため民間の医療保険に加入する必要があり、その保険の内容によって利用できる病院が異なります。さらに、血液検査やレントゲン、心電図などの検査を希望しても、保険の内容によっては数か月待たなければいけない場合がよくあるそうです。日本の病院で、定期診察に来たついでにいろいろな検査を希望する患者さんをたまに見かけます。市や職場の健康診断の方が安く受診できるのでは？と尋ねたところ、そうした場合には通訳がつかないし、病院の方が早く結果がわかるからということでした。できる時にしておかないと、ということですね。



～SDGsとMedi-Way～

最近、当たり前のように聞かれる「SDGs」。皆さまもいろいろと取り組まれていると思います。当社でも社内プロジェクトを立ち上げ、私たちができることを社員とその家族を巻き込みながら、少しずつですが活動を進めています。東和通訳センターMedi-Wayでは、医療通訳というコミュニケーションに関わることにより、17の開発目標のうち「3. すべての人に健康と福祉を」、「10. 人や国の不平等をなくそう」の2つに関わることができるとの観点から、通訳者一同で取り組んでいます。

さて、私ごとではありますが、先日「ユニバーサルマナー検定3級」という民間資格にチャレンジしました。「自分とは違う誰かの視点に立ち行動すること。困っている人がいたら行動し、助け合える社会。みんなが安心して、心から楽しく過ごせる社会」。当社が考えていることでもあり、SDGsの行動にもつながると思いました。ご興味がありましたらQRコードからのぞいてみてください。

センター長



ユニバーサルマナー検定について➔

今月のピックアップ

「外国語の方言や訛り - 苦労しています！」 Vol.2

中国語の方言は有名なところで広東語・上海語・福建語などがあり、他にもそれぞれの地域の言葉と発音(訛り)があります。広東語と北京語では数字の読み方から違うと言いますから、本当に全くの別言語です！複数の通訳者が、「書いてもらう」や「標準語が話せるご家族に間に入ってもらってダブル通訳で乗り切る」などと苦労していました。

ベトナム語の方言は北部・中部・南部それぞれにあって、特に中部の方言は訛りが強くて聞き取りにくいそうです。中国語の声調が4つあるというのはかなり有名ですが、ベトナム語には第6声までであることはご存じでしたか？

方言では、同じ表記のまま声調が変わったりすることもあるそうです。ほんと大変！南部出身の妊婦さんが「1日にボム(りんご)1個食べる」と言った時、北部出身の通訳者は「ボム=爆弾」でギョツとしたそうです(^^)；

同行の通訳であれば、診察の待ち時間に少し会話してその人の言葉に慣れておけるよう努めるのですが、オンライン通訳の場合はいきなりスタートしますから、まさに通訳者泣かせ。それでも通訳者たちは普段から「ひたすら慣れるのみ」とトレーニングに励んでいます。

